

2026年5月15日

「今後の鉄道物流のあり方に関する検討会」中間とりまとめに対する KGI/KPIの達成状況について

標題のKGI/KPIについては2022年10月に策定し、その達成状況を決算時期に合わせ半年に1回公表することとしておりましたが、このたび、2025年度実績について別紙のとおりとりまとめましたのでお知らせします。

別紙

KGI/KPIの達成状況について

【2025年度実績】

2026年5月15日
日本貨物鉄道株式会社

1. KGI(重要目標達成指標)

KGI (重要目標達成指標)

2025年度コンテナ輸送トンキロ 目標

- ・チャレンジ目標 209億トン
- ・必達目標 196億トン

2025年度 コンテナ輸送トンキロ 実績

161.6億トン

- 国内物流量は、産業構造の変化や物価高騰による消費低迷などを背景に減少傾向が続いている。その中で、2025年度は、国内景気は、全般的に緩やかな回復基調にあったものの、米国の通商政策や中東情勢の混乱等を巡り、先行き不透明な状況が継続した。品目別では、工コ関連物資が、中央新幹線建設工事に伴う発生土の運搬により前年を上回ったほか、自動車部品は、一部顧客における増送が続いた。また、積合せ貨物は、ドライバー不足を背景とした鉄道利用の増加により前年を上回った。一方で、一部顧客における出荷停滞による食料工業品の減送、農産品・青果物等の減送、雪害や大雨をはじめとする自然災害等の影響により、輸送量（トン）は、前年度比1.6%増にとどまった。輸送量（トンキロ）は、中距離帯のご利用が増加したことや、雪害による北海道発着輸送量の減少により平均輸送距離が縮小（879km⇒854km）したことから、前年度比1.2%減となり、目標達成には至らなかった。

2. KPI(重要業績評価指標)

視点1：貨物鉄道の輸送モードとしての競争力強化に向けた課題

KPI (重要業績評価指標)

課題

2025年度
目標

2025年度
実績

達成度

- 2025年度主な取組内容に対するトレース
- その他の取組内容

既存の輸送力を徹底的に活用した潜在的な輸送ニーズの取り込み

- ・チャレンジ目標 積載率 全日平均 81.2%
- ・必達目標 積載率 全日平均 76.5%

積載率
全日平均
72.6%

未達成

- (1) グループ会社と協働する新たな総合物流体制の構築と稼働
 - 貨物駅の物流結節点機能強化に関して、積替ステーションを活用した遠距離集貨の新規輸送を実現
- (2) 既存輸送力を徹底的に活用した潜在的な輸送ニーズの取り込み
 - 31ftコンテナ輸送のご利用ニーズを踏まえたラウンド輸送を開始
 - 定温コンテナ輸送のラウンドマッチングを提案、輸送を開始
 - 「物流統括管理者」(CLO)を選任されたお客様に対する働きかけを実施

【目標未達成の主な理由】

- 一部顧客における食料工業品の出荷停滞や、農産品・青果物等の減送が影響した

KPI（重要業績評価指標）

課題

 2025年度
目標

 2025年度
実績

達成度

 ●2025年度主な取組内容に対するトレース
○その他の取組内容

 定温コンテナ
輸送
11.2%増
(対2020年度比)

 +10.6%
(対2020年度比)

未達成

- 片道輸送の解消、ラウンドマッチング提案の強化
- お客様との連携の下、国の支援策等を活用し新規導入をバックアップ
- 先行事例のある冷凍食品や医薬品について、これまでにご利用のないお客様や3PL事業者へ提案営業を推進

【目標未達成の主な理由】

- ・ニーズが高まっている一方、雪害をはじめとする自然災害等による輸送障害が影響したため

 31ftコンテナ
輸送
17.4%増
(対2020年度比)

 +15.8%
(対2020年度比)

未達成

- 国交省の「モーダルシフト加速化緊急対策事業」補助金を活用し製作した31ftコンテナを用いて輸送を拡大
- お客様、3PL事業者と連携しラウンドマッチングのパッケージサービスを提供
- 31ftコンテナ時刻表をホームページ上で公開

【目標未達成の主な理由】

- ・特積事業者以外のご利用が十分に進んでいないことや、雪害をはじめとする自然災害等による輸送障害が影響したため

 中距離帯
輸送
23.8%増
(対2020年度比)

 +8.5%
(対2020年度比)

未達成

- ご利用が増えている区間の輸送力を増強する等、お客様のニーズに基づく弾力的な輸送力を配置
- 輸送余力の比較的多い区間（九州→関西、関西→新潟）については、返送私有コンテナの往復利用の促進等により輸送量を拡大
- リードタイム緩和や物流量の変化を把握・分析し、ターゲット区間を見極めながらお客様をリスト化しアプローチを実施

【目標未達成の主な理由】

- ・中距離帯のニーズが高まっているものの、その需要は輸送力を大幅に増強するまでには至っていないため

これまで限定的な扱いとなってきた貨物への対応

KPI（重要業績評価指標）

課題

 2025年度
目標

 2025年度
実績

達成度

 ●2025年度主な取組内容に対するトレース
○その他の取組内容

これまで限定的な扱いとなってきた貨物への対応

5tに満たない小口貨物混載・共同輸送の定期ルート設定

小口混載のプラットフォームを進める事業者と定期ルート設定に向けた検討を実施

未達成

- 小口混載のプラットフォームを進める事業者と連携し、輸送区間を特定して新たな商品づくりを目指したものの、商品化には至らなかった
- 商品化に向けて取組む過程では、JR貨物ロジ・ソリューションズ(株)を交え、積替作業等について他の物流事業者にも働きかけ、将来のコンソーシアム化も含めて取り組んだ
- 余席の多い区間を次のターゲットに切り替え、柔軟に方針を転換しながら取り組んでいる

【目標未達成の主な理由】

- ・想定していた顧客や荷量の確保に目途が立たず、商品化には至らなかった

 積替
ステーション
設置

8駅

達成

 対象全駅への設置を完了
(22駅)

 (対2025年度目標)
22駅の目標に対して
23駅完了

- 帯広貨物、苫小牧貨物、仙台(夕)、石巻港、山形ORS、横浜羽沢、静岡貨物、名古屋(夕)の8駅に設置を完了

国際海上コンテナの海陸一貫輸送の対応

- ・輸送ニーズ、事業性の確認
- ・官民一体となった持続可能なスキームの構築
- ・事業性判断後低床貨車発注

- 駅見学会の開催等輸送ニーズの掘り起こし、輸送体系の適正化を実施
- 港湾運営会社の支援制度を活用
- 低床貨車の試作車2両が落成、走行試験を実施

未達成

- 宇都宮事業(横浜本牧⇔宇都宮(夕))について、横浜本牧で7回、宇都宮(夕)で6回の見学会を開催し、輸送ニーズの掘り起こしを行うも、運賃競争力が確保できず、また、主要荷主の低迷等から発送個数は減少。運転回数、車数等の輸送体系を適正化
- 港湾運営会社の港内ショートドレイジ支援を活用し、合計料金の低減を図り、ご利用しやすい環境を目指した
- 次世代低床貨車の試作車2両が落成、2026年1月から3月の期間に走行試験を実施

【目標未達成の主な理由】

- ・運賃競争力が確保できず、利用が低迷。持続可能なスキームの構築には至らなかった

KPI（重要業績評価指標）

課題

 2025年度
目標

 2025年度
実績

達成度

 ●2025年度主な取組内容に対するトレース
○その他の取組内容

 BCP対策会議
新設
2都道府県以上

(累計5都道府
県以上で開催)

 BCP対策会議
新設
2都道府県

(対2025年度目標)
5都道府県完了

達成

- 北海道地区及び北東北地区において「鉄道物流の災害による輸送障害に対するBCP 策定に向けた官民一体の検討会」を開催、輸送障害発生時のトラック・内航海運による代行輸送強化に関わる課題等について議論を実施(災害想定)
- ・北海道の有珠山噴火による室蘭線の寸断を想定
- ・青森県～岩手県間の大雨による鉄道路線の寸断を想定

 災害時を
はじめとする輸
送障害への対策
強化

 災害時山陽線
カバー率 50%
(2030年度)

 コンテナホーム
拡幅、駅事務所
移設、代行トラッ
ク駐車場整備の
各工事を実施

-

- コンテナ仕訳1番線ホームの拡幅工事を実施（2025年11月使用開始）
- 駅事務所移設工事を実施（2025年12月使用開始）
- 代行トラック駐車場の整備工事を実施（2025年11月整備完了）
- 代行トラック駐車場への通路整備に伴う電車線移設・軌道撤去等の関係者との協議を実施。施工は2026年度を予定

 輪重測定装置・
トラックスケール
整備

 対象全駅への
整備を完了
(95駅)

 33駅

(対2025年度目標)
95駅完了

達成

- 33駅の整備を完了
(北見、富良野、滝川、苫小牧貨物、東室蘭、大館、仙台(夕)、酒田港、小名浜、東京(夕)、千葉貨物、新座(夕)、横浜本牧、倉賀野、北長野、南松本、南長岡、沼津、名古屋(夕)、名古屋南貨物、半田埠頭、四日市、富山貨物、速星、安治川口、東福山、新南陽、宇部、下関、新居浜、松山貨物、西大分、延岡)

KPI（重要業績評価指標）

課題	KPI（重要業績評価指標）			
	2025年度 目標	2025年度 実績	達成度	●2025年度主な取組内容に対するトレース ○その他の取組内容
災害等 輸送障害 発生時の 対応力強化	ホームページの 改善	ホームページの 「輸送情報」につ いて、地図等を用 いた表示・ページ の仕様を決定し、 改修を実施	達成	●ホームページの「輸送情報」について地図等を用いた情報提供に向けて、具体的なフォーマットや提供する情報を整理し、ホームページの改修を実施
新たな社会的 要請への対応	自衛隊との 定期的な 意見交換	4回開催	達成	<ul style="list-style-type: none"> ●防衛省より提起があった輸送案件につき、関係事業者等と連携を取りながら課題整理、対応策の検討を実施 ●自衛隊の演習に伴う専用列車を運行（成果の実証） ○自衛隊による貨物列車の輸送における振動等の計測を実施 ○自衛隊による駅見学会を開催
新幹線による 貨物輸送拡大 に向けた検討 の具体化	貨物新幹線車両の 設計検討	既存業務へのマテ ハン技術導入を 検討	未達成	<ul style="list-style-type: none"> ○将来的な貨物新幹線車両での活用も視野に入れ、既存業務への段階的なマテハン技術の導入について検討を開始。荷物の運搬、管理作業をターゲットに調査を実施 <p>【目標未達成の主な理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術面等の課題が多く、まずは、荷役技術の検討から取り組んでいるため、新幹線車両の設計検討を行う段階には至っていない

視点2：貨物鉄道と他モードの連携に向けた課題

課題	KPI（重要業績評価指標）			
	2025年度 目標	2025年度 実績	達成度	●2025年度主な取組内容に対するトレース ○その他の取組内容
誰でも いつでも 利用できる 体制づくり	・物流MaaS JR貨物グループ の運送業務におけ る受発注のIT化及 び共通化計画の 策定	JR貨物ロジ・ソ リューションズ(株) において「総合物 流事業システム」 の構築を完了し、 業務利用を開始	達成	●JR貨物ロジ・ソリューションズ(株)が展開する総合物流事業を推進するため、 ノーコードアプリを活用して「総合物流事業システム」を構築し、業務利用 を開始。 これに伴い、同社において「見積→受注→精算（請求）」の一連の流れを システム上で一元管理することが可能となった
パレチゼーショ ンの推進	パレットデポ設置 対象全駅への 設置を完了 (22駅)	養生資材レンタル 型デポを設置 (2駅) (対2025年度目標 22駅中14駅完了)	未達成	●ニーズを踏まえ、「コンテナ養生ボード」を対象とした養生資材レンタル型 デポを設置（百済(タ)、札幌(タ)） 【目標未達成の主な理由】 ・11型パレットを対象とする従来型のパレットデポについては、パレットの回 送等の課題がありご利用が見込めなかったため
貨物駅の高度利 用・貨物鉄道の スマート化の 推進	レールゲートから の発送 7,889個 (対2024年度比 3%増)	13,721個 (対2024年度比 79%増)	達成	●鉄道用クロスドック機能の営業活動を推進 ●鉄道利用顧客へのテナントリーシングを実施 ○鉄道未利用テナントへの継続的な提案営業を実施

KPI（重要業績評価指標）

課題

 2025年度
目標

 2025年度
実績

達成度

 ●2025年度主な取組内容に対するトレース
○その他の取組内容

貨物駅の高度利用・貨物鉄道のスマート化の推進

 コンテナ留置レイアウトの見直しによるキャパシティ拡大
(累計900個分を完了)

 コンテナの整理により290個分のキャパシティを生み出し
(累計1,050個分を完了)

達成

●コンテナ留置レイアウトの見直しや、倉庫として使用していたコンテナの整理を実施

視点3：社会・荷主の意識改革に向けた課題

KPI（重要業績評価指標）

課題

 2025年度
目標

 2025年度
実績

達成度

 ●2025年度主な取組内容に対するトレース
○その他の取組内容

貨物鉄道輸送の特性に関する認知度向上

鉄道輸送による消費エネルギー概算手法の策定

多様な走行条件下においても、概算手法が一定の精度で適用可能であることを検証

達成

 ●鉄道総研協力の下、貨物輸送による消費エネルギー概算手法の精度を確認し、「貨物駅間別のCO2排出量マトリックス」の算定を実施
○駅での荷役作業におけるCO2排出量の試算を実施

貨物鉄道利用促進の制度設定

荷主に対するインセンティブ案の確定

インセンティブとしてJ-クレジットの活用を検討

未達成

●鉄道へのモーダルシフトによるCO2削減効果をクレジット化する仕組み（J-クレジット）の確立に向けた関係機関との調整を実施

【目標未達成の主な理由】

・貨物鉄道輸送へのJ-クレジット制度適用に向けた制度内容の整理に時間を要しているため

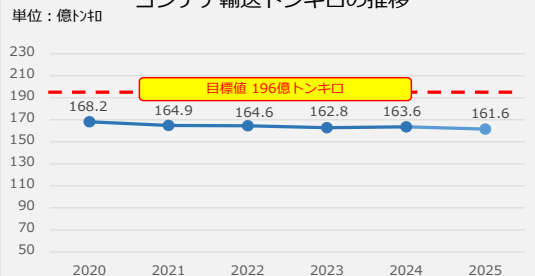
KGI/KPI 主要項目の達成状況の推移

KGI/KPIは2023年度より設定

KGI (重要目標達成指標)

コンテナ輸送トンキロ

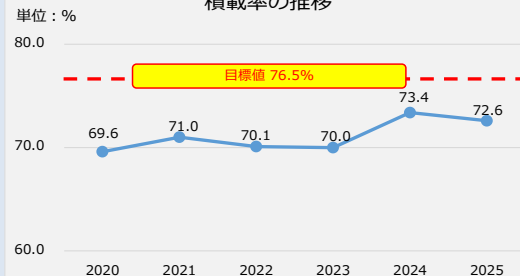
コンテナ輸送トンキロの推移



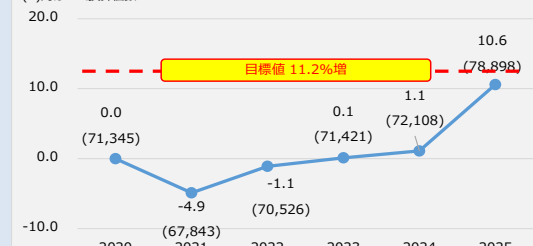
KPI (重要業績評価指標)

積載率

積載率の推移

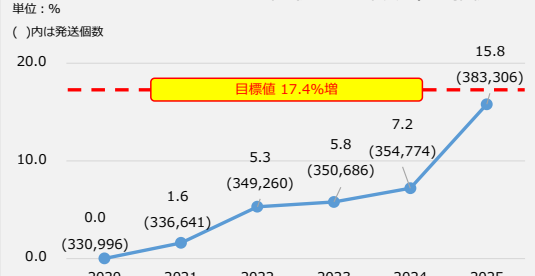


定温コンテナ輸送

 定温コンテナ輸送増減率 (対2020年度比) の推移
()内は12ft換算個数


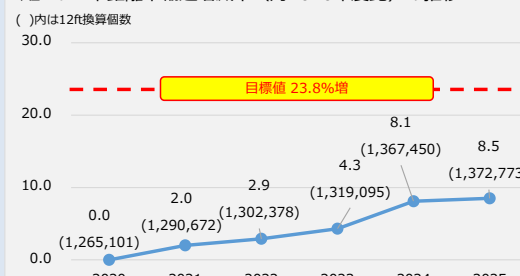
31ftコンテナ輸送

31ftコンテナ輸送増減率 (対2020年度比) の推移



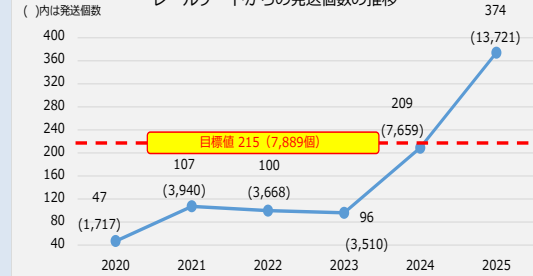
中距離帯輸送

中距離帯輸送増減率 (対2020年度比) の推移



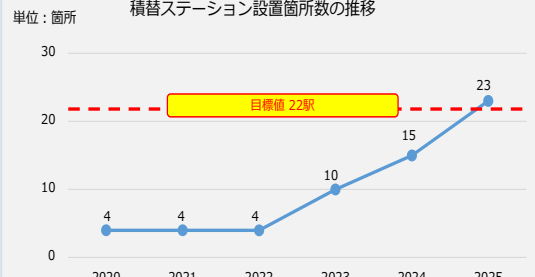
レールゲートからの発送

レールゲートからの発送個数の推移



積替ステーションの設置

積替ステーション設置箇所数の推移



パレットデポの設置

パレットデポ設置箇所数の推移



輪重測定装置・トラックスケール等の整備

輪重測定装置・トラックスケール等の設置箇所数の推移

